

防災関連施設等の工事状況を確認

総務厚生委員会

11月30日に総務厚生委員会を開催し、防災関連施設等の工事進捗状況の確認を行い、その後熊野東防災交流センターにおいて意見交換並びに質疑を行いました。

[確認施設]

●熊野西防災交流センター

くまの・みらい交流館に隣接して建設されており、シャワー室やペット同行避難場所など避難施設の充実を図ることを目的として、令和3年度末の完成を目前に現在工事が進められている。完成後は西部方面の防災拠点施設として利用される。



▲ 工事の進捗状況を確認

●防災行政無線再送信子局（中継局）設置

令和3年度に防災行政無線のデジタル化が完了したが、初神・新宮地域の一部で戸別受信機本体だけでは受信できない地域があり、通信環境改善のため深原公園敷地内に再送信子局（中継局）の設置が令和3年度末の完成を目指して工事が進められている。



▲ 深原公園敷地内の中継子局

●筆の里工房周辺整備事業

筆の里工房周辺は、観光交流拠点として公園整備事業が計画されているが、平成30年の豪雨災害の影響等により工事が中断していた。昨年度より駐車場の整備工事がスタートした。早期の完成により町民の憩いの場となることを期待している。



▲ 整備の進捗状況を確認

[意見交換・質疑]

防災関連施設等の確認後、熊野東防災交流センターで当該施設の利用状況等について意見交換、質疑を行いました。

Q1 開設後の利用者の状況は

A1 11月末までの総入館者は3,996人となっている。

Q2 7月、8月の避難情報発令時の状況は

A2 最多避難者数（定時報告）は、7月は8日の35世帯、68人、ペット5匹。一時的には81人が避難した。8月では14日の25世帯、54人、ペット5匹の避難があった。



▲ 防災ホールでセンターの利用状況等について確認しました

最後に、施設の立地条件等を考慮し、利用者の増加に向けた取組みを町に要望しました。



荒瀬 穂積 議員

Q 県道矢野安浦線バイパス延伸。町長の所見は

A 町長

引き続き国の個別補助制度を活用いただき、県と連携し、5・6年で道筋をつけていきたい。



▲ 県道矢野安浦線バイパス

【Q1】 町内道路は、慢性的渋滞である。原因は明らかである。広熊トンネル2本化や町内道路未整備のまま無料化したから。国道化を考えた。議会も特別委員会を設置して検討しよう。町長から国県への要望を含め、所見を求めたい。

【A1】 バイパス延伸の工期などはまだ未定である。県の道路整備計画に位置づけられ、国の個別補助制度を活用して重点的に支援を受けながら実施する旨を聞いています。道路事業は99%が用地買収と言っても良い。住民の協力を得て5・6年で道筋をつけたい。ここ10年以内だと思っている。

Q “県議会、筆製造技術を県文化財へ。熊野町は

A 総務部長

熊野筆の製造技術の保存と伝承等を目的に、来年度の申請に向けて準備を進めている。



諏訪本 光 議員

【Q1】 筆製造技術の文化的価値を高めることとなり、大変良いことだ。大切なことは、この技術を如何にして次代へ引き継ぐかだが、町の考えは。

【A1】 筆組合が筆製造技術研修会事業等を実施し、後継者の育成に取り組んでいると聞いている。

【Q2】 技術の継承や後継者の育成について、町は問題意識を持っているか。

【A2】 主要な伝統産業を守るうえで、大きな課題として認識している。

【Q3】 聞くところによると、数年前に専門的技術者を集め「筆センター」を整備して、仕事を集約している。

【A3】 町は把握していない。筆組合に確認したが分からなかった。

【Q4】 機会を見て調査してもらいたい。この「筆センター」を筆の里工房と関連させても良いのではないかと、観光事業等への期待もできる。

【A4】 いろんな取り組みや方法があると思う。協議を進め、関係機関や民間の取り組みを支援したい。

筆文化の後退、材料の確保、職人養成など多くの課題を抱えている。

